



「日本・エジプト科学技術年２００８」について

平成２０年３月６日

中東第一課

１. 経緯

- (１) エジプトは、科学技術の強化及び先進国との協力促進を図るため、２００７年からの１０年間を“エジプト科学技術１０年間”と定めた。１年目の２００７年は、ドイツとの間でドイツ・エジプト科学技術年を実施している。
- (２) ２年目の２００８年について、エジプトは、以下のとおり説明しつつ、是非とも日本との間で科学技術年を実施したい旨要望越したので、我が国は経費を抑えた形で既存の各種スキームを活用しつつ、２００８年（１月１日～１２月３１日）に“日・エジプト科学技術年”を実施することとした。
 - (イ) 科学技術を国造りにどう位置付け、どう反映させるかといった考え方をエジプト人に注入して欲しい。
 - (ロ) 科学技術年は「ものの考え方」の交流が核であって、財政負担は大きくない。

２. 概要

- (１) ３月８日にカイロ大学大ホールで開会式を開催。同開会式には、宇野外務大臣政務官が出席するほか、薬師寺泰蔵総合科学技術会議議員が記念講演を行う。また、同開会式を祝して、アズハル公園で「日本・エジプト児童友好の日」式典を開催する。
- (２) 我が方が予定している科学技術年の主なプログラムは、以下の通り。我が国は、これらプログラムに「科学技術年」の冠を付すこととする。
 - (イ) エジプトの各大学と学術交流協定を締結している本邦８大学は、共同研究、シンポジウム、研究者の受入などを実施する。
 - (ロ) エジプトにおける著名な日本人科学者の講演
 - (ハ) エジプトにおけるＪＩＣＡ専門家の講演会や講習会
 - (ニ) ＪＩＣＡスキームによる本邦での研修や専門家派遣
- (３) エジプト側は、当初、(イ) バイオテクノロジー、(ロ) ナノテクノロジー、(ハ) 新・再生エネルギー、(ニ) 健康、(ホ) 情報工学、(ヘ) 宇宙工学、(ト) 製造及び品質の７分野での協力を提案越したが、その後、エジプト学、日本学、イスラム研究、メカトロニクス、機械工学、土木・環境工学を加えた１３分野での交流を提案越している。
- (４) 交流プロジェクトは、最先端の科学技術に限定することなく、子どもの関心を引く初歩的なものも含まれる。

(了)